

おしよる丸第 159 次北洋航海乗船報告

2005 年 6 月 27 日から 8 月 25 日までの間、北海道大学水産学部練習船おしよる丸の第 159 次北洋航海に乗船した。本航海は 165° E ライン、セジメントトラップ回収を中心とした Leg1、ベーリング海調査の Leg2、165° W ラインを中心とした Leg3、ハワイから Site H までの Leg4 から構成された。プランクトン教室の観測としては、NORPAC ネット・VMPS による固定試料採集、リングネット・がま口ネットによる飼育用サンプルの採集を中心に行った。また、CTD、XCTD 観測、流し網、鯨類の目視観測、エアロゾル採集などの、他講座、他大学の観測を見学する機会があり、勉強になった。今年度は寄港先のハワイにおいてハワイ大学との合同シンポジウムがあり、12 分の発表を行った。発表は卒業論文を英訳したものであったが、英語での発表は初めてだったので良い経験となった。

本航海では尾虫類による、海洋生態系においての高次動物への基礎生産の提供、深海への物質輸送の役割を定量的に調査するための、体組成分析用サンプルの採集を目的とした。サンプルは、Leg1 から Leg4 を通して、80 cm リングネット（一部がま口ネット）の水深 250 m からの鉛直曳きにより採集した。しかしながら全観測点のうち、分析できる十分な量が採集できたのは 7 地点のみで、冷水性種の *O. labradoriensis* と暖水性種の *O. longicauda* の 2 種のみ採集することができた。採集されたサンプルは、実体顕微鏡で種査定、体長測定後蒸留水で脱塩、-80 で凍結保存し、研究室に持ち帰った。また、飼育装置による尾虫類の飼育実験を行う予定であったが、ネット採集によるダメージが大きく、生きたサンプルを採集するのが困難だったため断念した。

今後は、サンプルの湿重量、乾燥重量を測定後、体組成分析を業者に依頼する予定である。この分析の結果から、海域、種ごとによる違いを明らかにし、修士論文のテーマである『北太平洋における尾虫類の生物地理学的研究（仮）』の一部として考察する予定である。

加藤 健

次回（9 月 15 日）は北辻さんと福井亮平君にお願いしています。